学部長 interview

この文学部案内をお読みのみなさんへのメッセージを学部長の小田中先生にいただきました。

大阪市立大学文学部長
言語文化学科　表現文化コース教授
小田中（おだなか） 章浩（あきひろ）先生

——どのような人に市大文学部に来てほしいですか？

小田中先生（以下、小）：ユニークな人、何か自分の中にこだわりを持っている人に来てほしいですね。

——市大文学部とはどのようなところですか？

小：市大文学部は規模がこぢんまりしているんですが、すごく和気あいあいとしていて雰囲気がいいです。そして毎年若くて優秀な先生が入ってこられるので人材の面でも大変充実していて魅力的な場所だと思います。

——昔の大学に比べて今の大学はどう変化しましたか？

小：昔は市大に限らず、大学は学生を放置してあまり面倒を見ていませんでした。それに比べると今の大学は手取り足取りで学生の面倒を見てくれますよね。先生が受け持つ学生の数の少なさを考えてもそうです。それに、市大文学部には教育促進支援機構というものがあり、新入生キャンプや就活セミナーなども開いてくれます。入学から卒業まで至れり尽くせりで、環境としてはよくなったのではないでしょうか。

——市大文学部での学びとは何ですか？

小：文学部の学びとは、すぐに効き目がわからないものなんです。たとえば、専門学校や他の学部であれば、そこで学んだことは社会に出てすぐに役に立つか、立たないかがわかりますよね。それに比べて、文学部の学びは卒業して10年、20年、下手すれば30年経ってから学んだ意味がわかってくるものなんですよ。そしてその意味がわかったときに、大学生活を振り返ってこういうことを学んでいてよかったな、と思えるのが市大文学部の学びなのではないでしょうか。

——市大文学部を目指す人にメッセージをお願いします。

小：関西圏の中でも市大文学部ほど様々な専門分野があって、勉強する環境が整っている充実したところは少ないと思います。そもそも勉強というものは興味の持ちようで色々できるものです。その点では、単に授業だけではなく、コース単位での勉強会や留学など、勉強をする手段が色々と揃っている市大文学部は、学ぶにはもってこいの場所だと思います。入学した際には学びに対して奥手にならず、専門外のことにも興味を持って、自発的に大いに学んでほしいです。

みなさんにはぜひ受験をクリアして市大文学部に来てくれたらな、と思います。

——ありがとうございました！

インタビュアー
一回生　熊谷朱音

← 文学部・文学研究科
教育促進支援機構
公式キャラクター　りてらちゃん

市大文学部の歴史

1949年	法文学部文学科創設（文学部の前身）
1953年	文学部創設
1954年	修士課程設置
1955年	博士課程設置
1968年	5学科12専攻
1999年	3学科15コースに改編
2001年	正式名称が「大阪市立大学大学院文学研究科・文学部」に
2002年	文部科学省の「21世紀COEプログラム」に採択
2010年	3学科13コース2領域（文学部）4専攻15専修（文学研究科）に改編

学科紹介

哲学歴史学科

われわれは何者なのか？　どこから来て、どこへ向かって進んでいくのか？　新しい世紀を迎えて、従来の文化的・社会的伝統の克服が叫ばれています。しかし、私たち人間が歩んできた道のりがどのようなものだったのか、人間とは何者なのか、を理解しなくては、私たちの未来の明確なイメージを描くことは決してできないでしょう。哲学歴史学科は、このような、いわば人間のアイデンティティーにかかわる根本的な問題について、ともに考えてゆくことをめざしています。

人間行動学科

情報化や国際化によって変化していく今日、心の世界、人と人とのつながり、自然との共生などへの関心が高まっています。人間行動学科では、観察・調査・実験といった科学的方法にもとづき、人間の行動、私たちの社会・環境、そして両者のかかわりについて、多様な角度から明らかにしています。各コースの学問分野を中核とし、それらを有機的に結びつけた独自のカリキュラムにより、「人」と「環境」の複雑さを、様々な視点から理解できる人材の育成をめざしています。

言語文化学科

言語文化学科は、言語を通して人間にアプローチし、人間が作り上げた文化を探求します。わが国、アジア地域、欧米諸地域の文学や、思想関係の文献を読み、言語の姿や仕組みを考察します。言語と関係する文化、たとえば演劇・音楽・映画なども分析対象です。こうした作業を通じて、人々がこれまで何を考えてきたか、現在何を考えているのか、そして今後どのような新しい考えを打ち出すのかを探ります。

コース選択のいろは

市大文学部の4年間とは？ コース選択について先輩に聞いてみました！

四年間の流れ

1回生として過ごす1年間は、コース選択のため期間です。学科ごとに様々なコースの先生方がオムニバス形式で授業をしてくださる講義や、幅広い総合教育科目（※）を通じて、自分の興味・関心を広げ、深める1年となります。年に2回行なわれるコースガイダンスを経て、12月にコースを決定します。

また、1回生の間に英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・朝鮮語・日本語（留学生のみ）から2ケ国語を選んで履修します。1週間に英語は2コマ、新修外国語は3コマの授業があります。外国語の授業ではネイティブの先生と話すこともでき、とても刺激的です。

2・3回生になると、いよいよコースごとの専門授業が始まります。進度は様々ですが、演習や講読、実験を通じて学びを深めます。もちろん、所属している学科・コースのものでない授業を受けることもできます。3回生では、卒業論文の執筆準備が始まります。

4回生では、卒業論文の執筆を行ないます。大学で学んだことの集大成ともいえる卒論を、コースの先生方の協力を得ながらまとめあげていきます。また、教育実習に行ったり、就職活動や大学院入試に向けた勉強にも励みます。

（※総合教育科目とは、学部を問わず受けられる授業です。他学部の先生の授業も受けることができます）

人間行動学科　社会学コース
2回生　谷口 優希子さん

入学前からコースを決めていました！

——1年間のコース選択期間をどのように過ごしましたか？

人間行動学科に興味があったので、人間行動学概論を中心に授業を受けました。また、教育促進支援機構の企画やコースガイダンスを通じて仲良くなった先輩から話を聞くこともしました。

——最終的に社会学コースを選んだのはなぜですか？

先輩の話や授業を通じて、地理学にも興味を持ちました。しかし、先輩から社会学と地理学では学問としてアプローチの仕方が異なると聞いて、やはり自分がしたいのは社会学だと思いました。

——コース選択期間があることのメリットは何だと思いますか？

私は、コース選択期間があったからこそ、自分が地理学に興味を持っているということに気づくことができました。1年間で社会学以外の視点を得られて良かったです。違うコース、分野に興味を持つことや先輩の話を聞くことも大切だと思います。

哲学歴史学科　哲学コース
2回生　鈴木 美奈実さん

1年間かけてコースを選びました！

——1年間のコース選択期間をどのように過ごしましたか？

志望コースを決めかねていたので、複数の学科の授業や、文学部の先生による総合教育科目を中心に授業を受けました。またサークルの先輩から、コースの話を聞いたり、おもしろい本を教えてもらって実際に読んでみたりしました。

——最終的に哲学コースを選んだのはなぜですか？

もともと人間の内面に興味があり、初めは心理学コースを志望していました。しかし、心理学コースは実験から学ぶと知り、やりたいことから離れていると気づきました。そこで、文献から学びながら自ら考えることができる哲学コースを選びました。

——コース選択期間があることのメリットは何だと思いますか？

幅広い授業を通じて、先入観を打ち消せることだと思います。また、1年間いろんな授業を受けて、自分の知識を様々な方面に広げられるのも良いところだと思います。

文学部

哲学歴史学科
- 哲学コース
- 日本史コース
- 世界史コース

人間行動学科
- 社会学コース
- 心理学コース
- 教育学コース
- 地理学コース

言語文化学科
- 国語国文学コース
- 中国語中国文学コース
- 英米言語文化コース
- ドイツ語フランス語圏言語文化コース
  - ドイツ語圏言語文化領域
  - フランス語圏言語文化領域
- 言語応用コース
- 表現文化コース

大学院文学研究科

哲学歴史学専攻
- 哲学専修
- 日本史学専修
- 東洋史学専修
- 西洋史学専修

人間行動学専攻
- 社会学専修
- 心理学専修
- 教育学専修
- 地理学専修

言語文化学専攻
- 国語国文学専修
- 中国語中国文学専修
- 英語英米文学専修
- ドイツ語フランス語圏言語文化学専修
- 言語応用学専修
- 表現文化学専修

アジア都市文化学専攻

次のページからコース紹介が始まるよ！